論文タイトル：Relationship between smoking status and periodontal conditions: findings from national databases in Japan.
論文著者：Ojima M, 他
論文掲載誌：*Journal of Periodontal Research.* 41: 573-579.

喫煙は健康にさまざまな悪影響を与え、そのひとつに歯周病があります。この研究は、1999 年の国民栄養調査と歯科疾患実態調査の両方に参加した 40 歳以上の日本人 3,493 名（男性 1,424 名、女性 2,069 名）を対象として、喫煙状況と歯周病の関連を調べています。

調査時の喫煙状況に応じて、対象者を「現在喫煙者」、「前喫煙者」、「非喫煙者」のいずれかに分類しました。ここでの「非喫煙者」は、“全く喫煙経験のない人”または“試煙程度の喫煙経験しかない人”と定義されました。

歯周病の程度は、CPI (Community Periodontal Index: 地域歯周疾患指数)で評価されました。CPI は、歯周病の程度を表す指数です。0～4 の値をとり、値が大きいほど歯周の状態が悪化していることを示します。この研究では、CPI が 3 または 4 の場合を「歯周病」とし、CPI が 4 の場合をとくに「重度歯周病」としました（表）。

表. CPI（Community Periodontal Index: 地域歯周疾患指数）と歯周状態

CPI	歯周状態
0	正常
1	出血が見られる
2	歯石が存在する
3	深さ 4～5mm の歯周ポケットが存在する …歯周病
4	深さ 6mm 以上の歯周ポケットが存在する …歯周病（重度）

非喫煙者に対する前喫煙者の「歯周病」ならびに「重度歯周病」の有病オッズ比（95%信頼区間）はそれぞれ 1.06（0.83-1.36）、0.96（0.67-1.38）でした。したがって、非喫煙者と前喫煙者では、歯周病と重度歯周病の有病頻度に有意な差はありませんでした。

一方、非喫煙者に対する現在喫煙者の「歯周病」ならびに「重度歯周病」の有病オッズ比（95%信頼区間）はそれぞれ 1.38（1.12-1.71）、1.40（1.04-1.89）でした。したがって、現在喫煙者は、非喫煙者に比べて、歯周病と重度歯周病のいずれの有病頻度も高いことが示されました。

まとめ

この研究では、現在の喫煙習慣は、歯周病との関連がある可能性が高いことが示唆されました。

※詳細は、文献をご確認ください。

―国立研究開発法人　医薬基盤・健康・栄養研究所―